



いのちの理由

■先日、高知市北部ケアマネージャーの勉強会にお招き頂き、「グリーンケア」のお話をさせて頂きました。その中で、さだまさしさん作詞作曲の「いのちの理由」というPVを紹介しました。

日頃、「なぜ自分は生まれてきたのか？」と考える機会は少ないかもしれません。

しかし、人が亡くなった時、特に身近な人が亡くなった時には、「いのちの理由」について考えさせられることがあります。

生まれてから死ぬまで、長いようで短い人生…。

人によってその長さはバラバラで、時には理不尽な人生にやりきれない想いを抱えている人もいます…。人生とは、いのちとは…。

訪問看護の仕事でご利用者の生活にかかわることができる私たちは、多くの場面でこのような問いに直面する機会があります。

■先日、ある方から、『トム・ソーヤーの冒険』の著者のマーク・トウェインさんの言葉を教えて頂きました。彼の残した言葉をご紹介します。

「人生で一番大事な日は二日ある。生まれた日と、なぜ生まれたかを分かった日」

「なぜ生まれたかを分かった日」とは、自分が生涯かけて果たしていきたいものが見つかった日のことを指しています。みな、自分の方向性や生き方を探りながら生活しています。思い悩んでそれが見つかったとき、生まれた時と同様の嬉しさ・幸福に包まれるそうです。

いのちの理由を考えさせられる深い言葉ですね。



■さだまさしの「いのちの理由」のPVを親しいステーションさんにも紹介しました。みなさん、心に響くものがあったようです。

https://www.youtube.com/watch?v=8JQXB8CmV_o

実際のPVをユーチューブで見えてみて、感想を教えてください。
てのひらが大切にしている考え方です。

暑い中、忙しい日が続いていますが、みなさんよく頑張ってくれています。
助け合いながら、この夏を乗り切っていきましょう。

2023年8月10日

呉 静恵



「いのちの理由」 作詞、作曲：さだまさし

私が生まれてきた訳は父と母とに出会うため
私が生まれてきた訳はきょうだいたちに出会うため
私が生まれてきた訳は友達みんなに出会うため
私が生まれてきた訳は愛しいあなたに出会うため

春来れば 花自ずから咲くように
秋くれば 葉は自ずから散るように
しあわせになるために 誰もが生まれてきたんだよ
悲しみの花の後からは 喜びの実が実るように

私が生まれてきた訳は何処かの誰かを傷つけて
私が生まれてきた訳は何処かの誰かに傷ついて
私が生まれてきた訳は何処かの誰かに救われて
私が生まれてきた訳は何処かの誰かを救うため

夜が来て 闇自ずから染みるよう
朝が来て 光自ずから照らすよう
しあわせになるために 誰もが生まれてきたんだよ
悲しみの海の向こうから 喜びが満ちて来るように

私が生まれてきた訳は愛しいあなたに出会うため
私が生まれてきた訳は愛しいあなたを護るため